

イオンモール京都桂川

AEON MALL Kyoto Katsuragawa

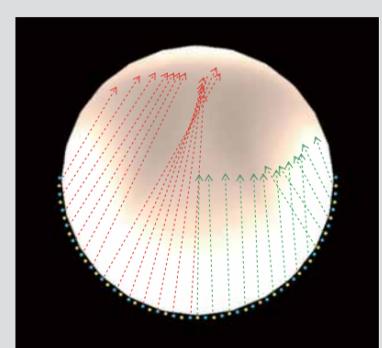


物件概要

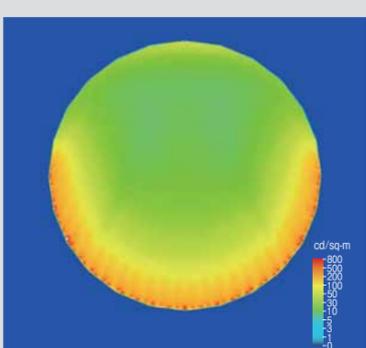
竣工：2014年10月
 所在地：京都府京都市南区
 施主：イオンモール株式会社
 基本設計・監修：株式会社 東畑建築事務所
 商業環境設計：株式会社 ディ・ブレイン研究所
 設計・監理：株式会社 竹中工務店、株式会社 東洋設計事務所
 施工：株式会社 竹中工務店
 電気工事：栗原工業株式会社

北東側外観。1階エントランス部分は、来場者が夜間も安全に歩行できるように平均照度38lx（保守率込み）を確保している。

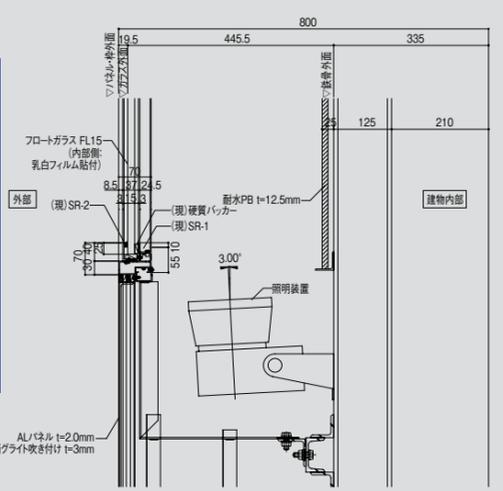
Lighting Point



行灯 器具配置図



行灯 輝度分布図



行灯断面 縮尺1/15

異なる角度でつくる行灯照明

施設のシンボルである3つの行灯はそれぞれ大きさが異なるため、照明シミュレーションによる検討と実験を繰り返し最適照明を実現した。ビーム角15°（中角）と55°（広角）を交互に配

置し、設置角度を1台毎に設定。中角配光で光を伸ばし、広角配光で光筋を拡散させることで、約12mの行灯に美しい光のグラデーションをつかった。端の中角配光器具をガラス面へ傾けることで、器具近くのガラス面に現れる光ムラを軽減した。

伝統と革新の融和

イオンモール京都桂川は、京都の伝統的なイメージを建築設計・建築素材・緑地計画に反映した大型商業施設。環境負荷低減を図るため、照明器具はLED光源を採用した。照明計画では京都桂川の地域文化との融合を育む「縁(えにし)の光庭」を体現するために、昼は「明けの明星」を夜は「行灯のあかり」をイメージして、昼と夜の表情をシンボリックに演出した。「京都らしさ」を導き出すことで、施設がより印象づけられることを期待し、「伝統(町家)と革新(商業施設)の融和」をコンセプトに、

どこよりも居心地のよい商業施設を目指した。北側外壁に設置した3カ所の行灯照明は、この施設の象徴となるサインである。直径10～12mのメタルポイントで支持された乳白フィルム貼りガラスと、朱色に塗装された壁面によってできた隙間をLEDのスポットライトで照らすことで、昼は白く見え、日が暮れるにつれて月をイメージさせる外観へと変化していく。新たな京都の月を抱いた商業施設のしつらえがゲストを誘うとともに、地域のシンボルとしての存在感を示している。



南西側より見る



木戸 貴博氏
 株式会社 竹中工務店 大阪本店
 設計部 設計第5部門
 設計グループ長

「イメージパース通りにつくる」が照明計画の課題でした。シミュレーション、モックアップでの機種選定、現物確認などの試行錯誤を重ねていただき、イメージを具現化した納めのできる照明に仕上がりました。



パナソニックEC担当：
谷邨 和子
 ソリューションライティングデザイン部
 (大阪)